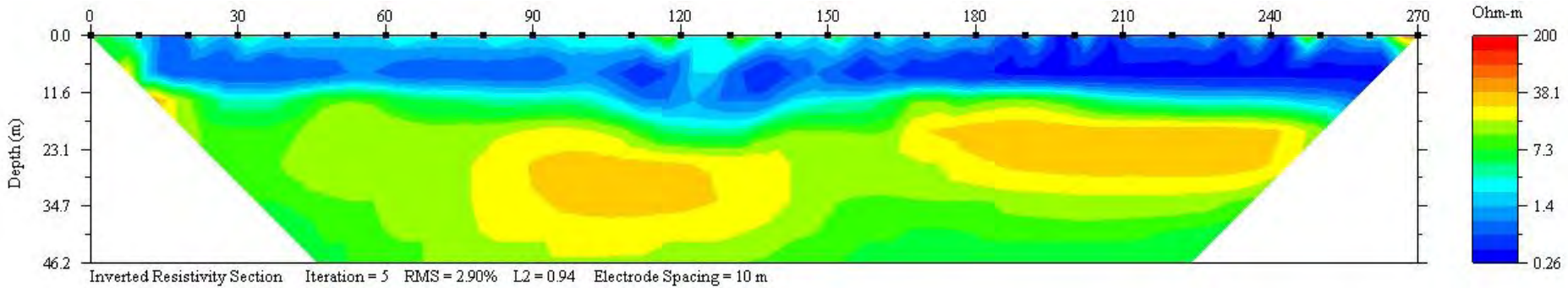
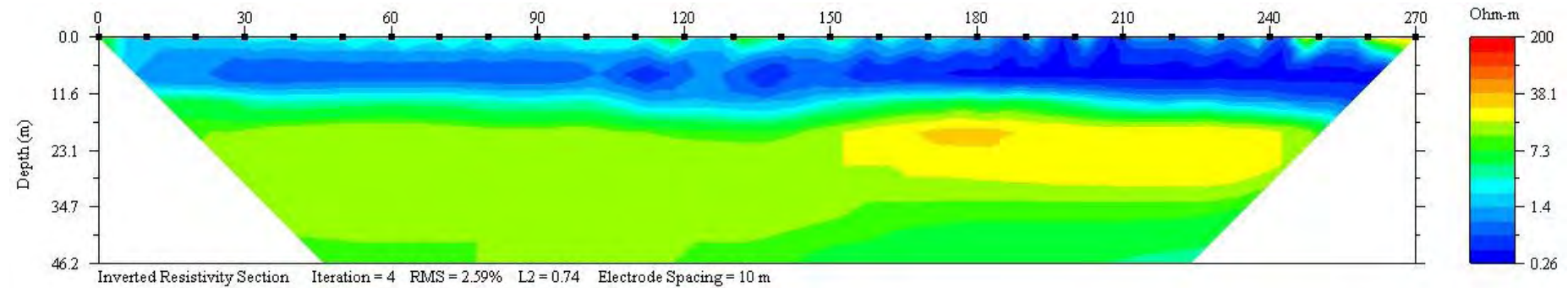


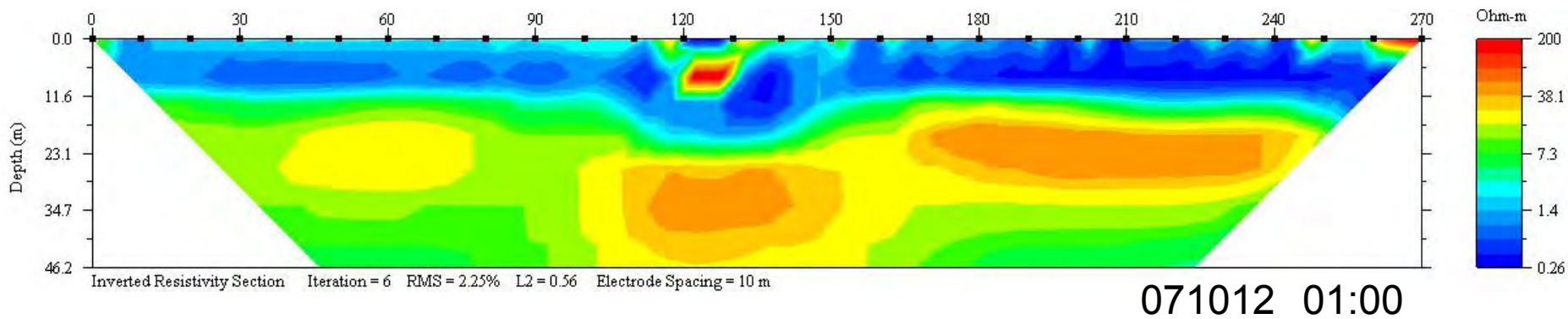
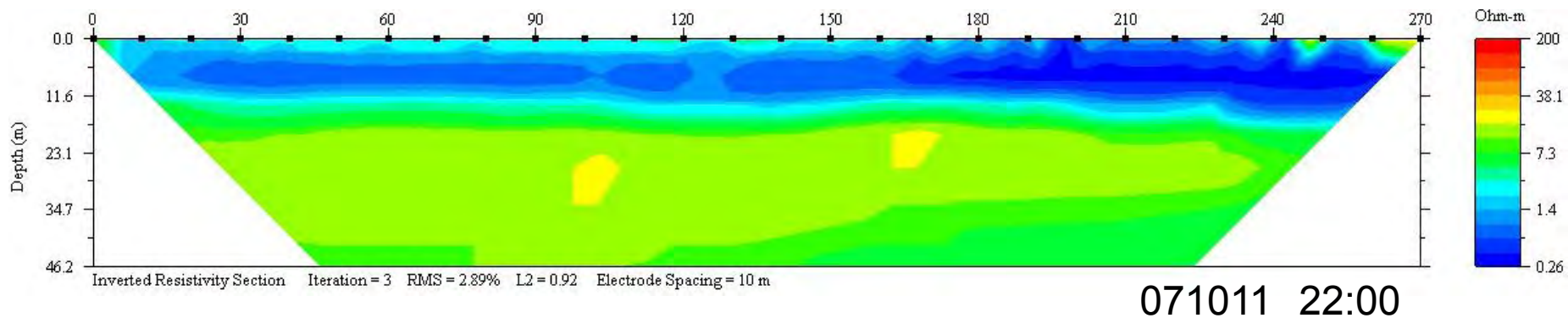
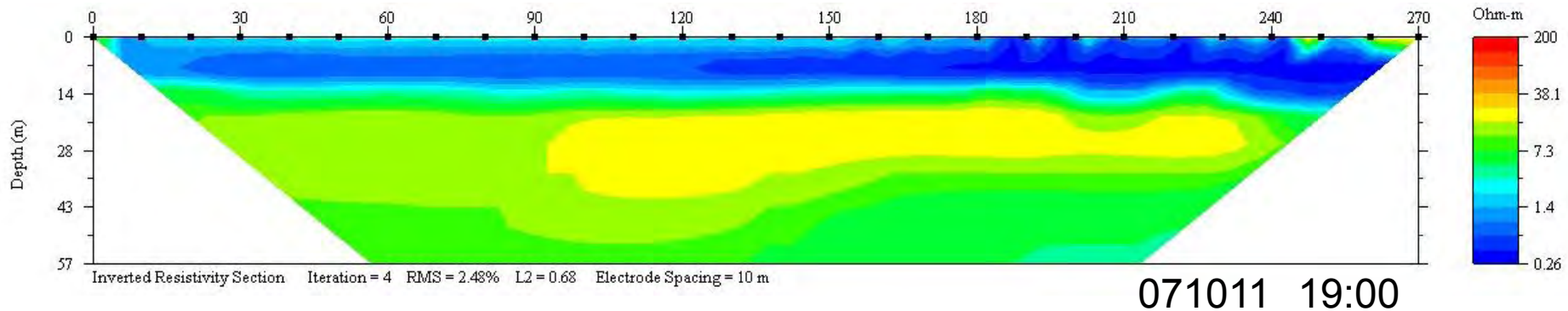
071011 9:00

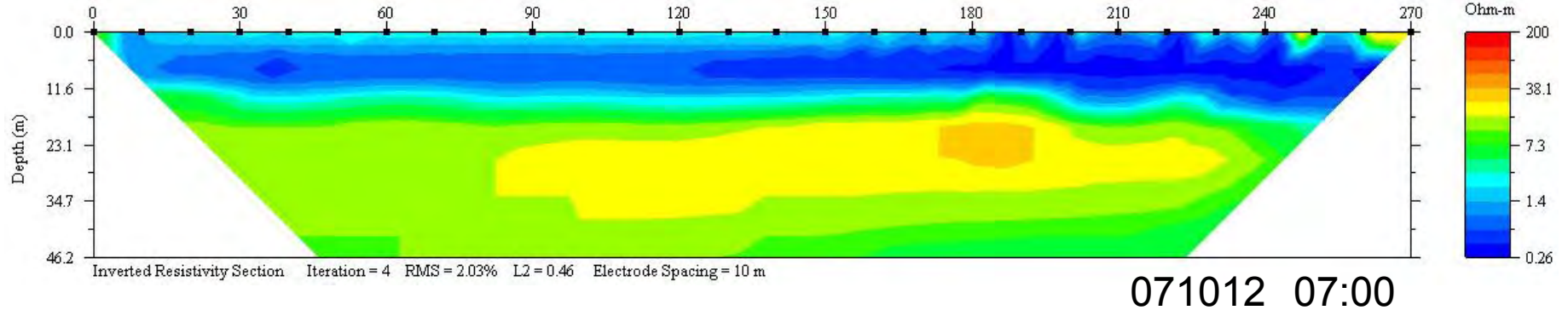
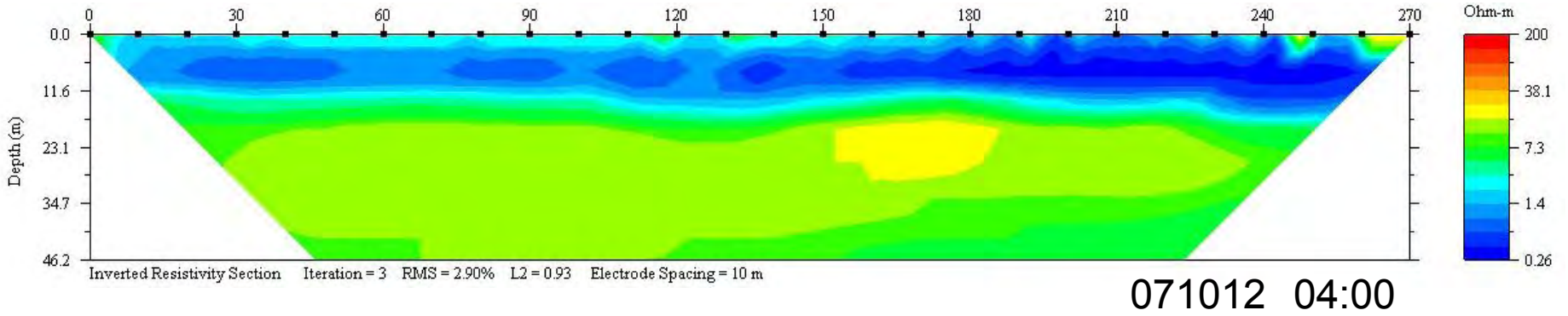


071011 12:00



071011 15:00





解析の方向性と見解

- 地形起伏, 海水がない条件で解析を行ってみました(測定深度が深いので, これらの条件を入れても大勢に影響はないかもしれませんが. 表層部の比抵抗値の低い部分が若干少なくなる可能性があります).
- 表層部に淡水(汽水)の層の存在が確認できます. また, 深度14m付近から下層に淡水の層が確認できます.
- 深度14m以深の淡水層は, 干潮時に比抵抗値が高くなり, 満潮時には相対的に低くなっていることが分かります. 陸に近い部分で, 干潮前後には干潟ができたかと思いますが, 干潮時には干潟の接地抵抗の影響で陸側の深い部分の比抵抗が高くなるのかもしれませんが.
- 干潮時の120~140m付近に比抵抗値の高い部分が出現し, その下の比抵抗値の低い層が深度12m付近で乱れていますが, これが何を表しているのかは不明です. 平面方向の連続性の方が強調された図になっていますが, あるいは干潮時には, この地点で深層部からの湧出があるのかもしれませんが.
→この地点は干潟の一番沖側の縁あたりに相当?
 - 地形が大きく変わる部分かもしれませんので, 地形を考慮に入れて解析し直すと, 違った結果が出るかもしれません.